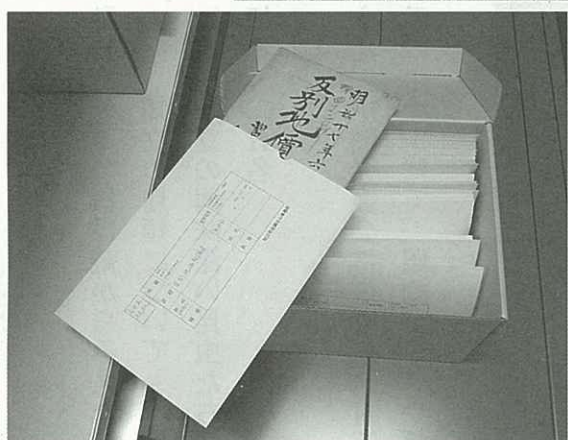


新編 知立市史だより

第5号



市史編さん係の書庫内には、市内から収集した古文書や公文書が保管されています。一枚あるいは一綴毎に表題・年号などを記入し、特殊な紙（中性紙）でできた封筒に入れ、さらに中性紙の箱に入れ、未来へと保存管理されます。

 知立市



2014.10.16

市史のホームページ見て下さいね

第二回自然部会中間発表会



自然部会では、平成二二年度より知立市で初の本格的調査観測を実施してきました。また、二四年度からはセミの抜け殻調査等で様々な方のご協力を賜っています。ご協力いただきます。ご報告・感謝も込めて今までの調査・観測してきた内容を報告しました。

実施日

平成二六年八月三日

午後一時半～四時

知立市図書館視聴覚室

内容 分野・テーマ・発表者名(敬称略)

- ・気象 知立における気候環境の特徴
- ・地形 知立の地形と地下地質
- ・植物 知立市に生育する維管束植物の変遷について

大和田春樹

堀 和明

近藤洋一郎



ひときわ目を引くのは、2年間にわたり集められたセミの抜け殻の山。全部で何個あると思いますか？

答えは **25,556個**。

市内小・中学校をはじめ、ご協力いただいた方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

・動物 セミの抜け殻からみえた知立のセミたち他

知立の鳥類について

知立の興味深い昆虫たち

参加者 二五名

小鹿 登美

緒方 清人

山崎 隆弘

また、中間発表会に併せて八月三日から一〇日まで図書館一階展示コーナーにて、観測データや標本等の展示も行いました。

熱中症に注意

自然部会では平成二九年度の発刊に向け、地形・地質、気候・気象、植物、動物の各分野が精力的に調査・解析を進めているところです。知立市は市域面積がおよそ一六平方キロメートルですが、各分野では狭い市域の特徴ある自然環境を探っているところです。

今年も猛暑が続いていますが、これは地球温暖化によるものです。その原因は海面温度の上昇によって赤道海域の上昇気流が強まり、下降気流域にあたる亜熱帯高压帯の勢力が増しているからです。このため、対流圏上層部ではユーラシア大陸南部に形成されるチベット高気圧が東西に範囲を広げ、東アジアでは日本付近まで張り出すようになってきました。最近では対流圏上層部と下層の高気圧が合体し、猛烈な暑さが現れるようになってきました。特に、東海地方は太平洋高気圧が西日本を覆った南高北低の夏型気圧配置になると、南西の風が風上側の山地を越えてフェーン現象となり、他の地域よりも暑くなりやすい地形的特徴をもっています。この南高北低型は一九五〇年代では出現率が三〇%程度でしたが、二〇〇〇年代になってからは五〇%近くにも達しています。この夏型気圧配置の増加が猛暑日（日最高気温二五℃以上）を多くしている要因です。

知立市も例外ではありません。知立市の夏の最高気温は一九七〇年代には岐阜県の各務原より約二℃、また豊田、岡崎よりも約

一℃低い傾向がありました。これは、知立市が衣浦湾から侵入する涼しい海風の影響を受けていたからです。しかし、現在では強い南西の風が南よりの海風の進入を阻止し、名古屋よりも暑くなる日も現れるようになってきました。

二〇一二年七月二八日の調査では、知立市のほぼ全域が猛暑でした。特に知立市東部の牛田町や西部の上重原町、および北部の山屋敷町から名鉄本線知立駅、三河線三河知立駅から国道一五五号線にかけての広い範囲が三七℃以上でした。しかし、知立西小学校付近や国道四一九号線に沿う弘法町から八橋町にかけての地域、および長篠町や来迎寺町付近では三六℃以下、南東部の谷田町では三五℃以下で知立市域でも約二℃の気温差がありました。

さらに、二〇一三年八月一日に実施した早朝観測では、市の全域が熱帯夜（日最低気温二五℃）でした。長篠町や弘法町を含む知立市役所から八ツ田町、および新林町にかけての地域、知立市北西部の逢妻町、桜木町、本町、知立駅から南新地の国道四一九号線に沿う地域、および上重原町から重原本町にかけての市西部では二九℃以上、その中で来迎寺町と谷田町は二八℃以下と気温が低く現れています。市の西側が高温となったのは、風上側にあたる名古屋からの大気が夜間から早朝にかけて吹く陸風によって運ばれてきたからです。このときの不快指数は早朝にもかかわらず八〇を超えていましたので、日中だけでなく夜間でも熱中症には十分な注意が必要です。

（自然部会 部会長 大和田道雄）

慈眼寺所蔵の

木造阿弥陀如来立像について



市史編さんにあたつて行われた仏像彫刻の調査の中から、山町桜馬場にある曹洞宗寺院・慈眼寺に安置される木造阿弥陀如来立像（市指定文化財・像高七八・五cm）を紹介します。

阿弥陀如来は、西の彼方にある極楽浄土という場所で教えを説いている仏です。日本では飛鳥時代からこの仏に対する信仰が行われ、特に来世の救済に関わる仏ということもあり、その作例は国内に残る仏像の中でも最も多く作られています。

慈眼寺に安置される阿弥陀如来像は、両手で来迎印という印相をあらわし、蓮の上に立つ姿であらわされており、阿弥陀如来が極楽浄土から私たちの世界に死者の魂を迎えにやつてくる姿をあらわしています。その姿には悟りを開いた者にあらわれる身体的な特徴である肉髻相や螺髪、肉髻朱や白毫相、三道相などが見られます。慈眼寺の像では、両耳に小さな穴があげられている点が

特徴です。衣服は、下半身に裙をつけ、その上に衲衣という一枚の大きな布と右肩を覆う覆肩衣をつけており、これは出家した者の姿をあらわすものです。眼は本物の眼のように輝いています。これは玉眼という手法で、眼の部分を削り抜き、内側から水晶製のレンズをあてています。肉髻朱や白毫相にも水晶が用いられています。

慈眼寺の阿弥陀如来立像は、鎌倉時代に作られた寄木造の仏像で、市内に残る阿弥陀如来立像の中でも最も古い作品です。

寄木造とは一体の仏像を造る際に複数の木材を寄せて彫刻を行う方法です。この方法を選択することで、効率的に仏像を制作することが可能になります。慈眼寺の像では、ちょうどお顔の真ん中で左右二つの角材を寄せ合わせる正中矧ぎという手法が用いられています。体の左右側面部分をつくる材料、両手首先と両足先をつくる材料も別に寄せています。

像の内側は丁寧に削り抜かれて空洞になっており、これを内刳と呼びます。表面的な調査ではこの像の制作者や制作背景を示す記録は確認できませんでしたが、内刳が施された像の内側には制作時の貴重な情報が残されている可能性があります。

慈眼寺の阿弥陀如来立像は、作域も優れており、X線CTスキャナなどで科学的な分析を行うことにより今後新たな発見も期待されます。市史編さん事業では所蔵者のご協力を賜りながら、貴重な地域の文化遺産をよりよい形で将来に伝えていきたいと考えています。

（文化財委員会 調査員 見田隆鑑）

知立の地名の始まり

知立という地名は、いつからあるのでしょうか。

承平年間頃（九三一〜九三八）、源順によつて撰述された『和名類聚抄』に参河国の郷名が記されており、碧海郡の所属郷名として「智立」とみえます。ちなみに、『和名類聚抄』の郷名に関しては、九世紀ごろのものと考えられています。国史で知立に関する地名を探すと、『日本文徳天皇実録』仁寿元年（八五二）十月乙巳条の、参河国「知立神」（知立ノ神）が従五位上の位階を与えられたのが初見記事で、九世紀に「知立」（「智立」とも記す）という地名が存在していたことは間違いありません。

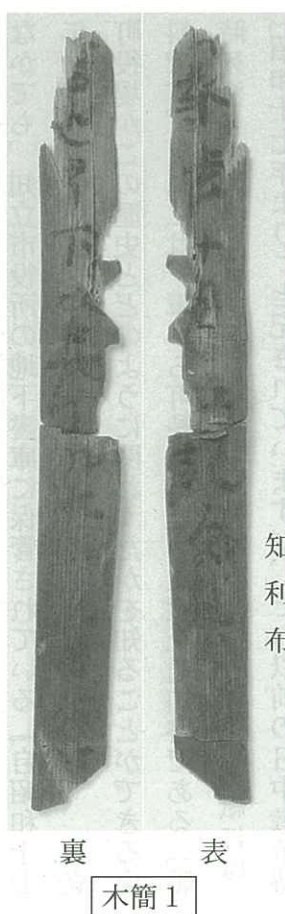
二〇〇三年、飛鳥の石神遺跡から出土した木簡1に、現在のところ最古の知立の地名が記されています。それが写真の「乙亥口（歳力）十月立記知利布五十戸」（表面）「口止口下又長ア加口小口米口口」（裏面）です。表面の「乙亥」は、天武天皇四年（六七五）の干支であり、この「知利布五十戸」こそ知立の地名を記した天武期の表記です。「知利布」は一字一音で記しておりチリフと訓め、「五十戸」は五十戸で一里となるところからくる、サトの表記法です。同様の表記は、同遺跡から出土した他の木簡2にもみえており、天武・持統期には「知利布」と表記されていたようです。

一方、平城宮東院南部から出土した木簡には、「知口（立力）里」の里名がみえており、靈龜三年（七一七）に国郡里制から国

郡郷里制へ切り替わったといわれているので、それ以前に「知立里」と表記されていたことが推定できます。つまりチリフの地名は、七世紀後半に「知利布」の表記で存在し、八世紀に入り「知立」の表記が使用されていることがわかりました。

知立市の知立（チリユウ）という地名は、恐らく遅くとも七世紀後半からチリフと呼ばれていた地名（サト名）で、八世紀に入り「知立」と漢字二文字で記すことになった、極めて古い由緒ある地名なのです。

（古代・中世部会 部会長 西宮秀紀）



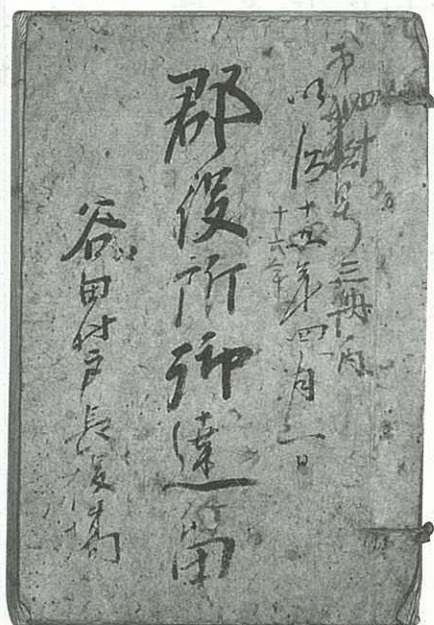
知利布

木簡2

※木簡1・2 写真提供
奈良文化財研究所

いまにつながる市史づくり

知立市史近代・現代編の編集は、膨大な史料との苦闘です。知立市には、町区が保存してきた文書があります。市史編さん事務局では区有文書と呼んでいます。その整理とデータベース化も今回の市史編さんの大きな仕事となっています。区有文書には、明治以降の地域の歴史がたくさん詰まっています。なかでも、人々が命を守ることに懸命だったことを示しているのが、衛生関係の資料です。幕末の開国によって、日本には、文明開化とともに「コレラ」という死に至る伝染病がもたらされました。明治十二年には、全国で十万人の死者を出しましたが、その年、各地に衛生委員が置かれ、計画的に伝染病の対策と予防を行うことになりました。谷田区有文書には明治一六年の碧海郡会での



「郡役所御達留」
谷田町所蔵・歴史民俗資料館寄託

「衛生に關する決議書の内容を村民に周知させるための史料が残っています。(写真)」

西中区有文書には、明治三〇年に制定された伝染病予防法により全国に広まった衛生組合に関する文書として「碧海郡長崎村衛生組規約」が保存されています。八橋区有文書には、大正六年に知立尋常高等小学校で行われた「第一回衛生週間」のプログラムが残されています。「衛生」という考えは、明治になって生まれた新しい考えでしたが、知立でもその考えは着実に浸透していたのです。

このように、人々の命を守る仕組みが整えられる一方、近代は戦争の時代でもありました。戦争に関わる史料も多く見られます。なかでも、知立市役所の地下書庫に保管されている『自昭和十七年 戦死者関係綴』は、多くの若者が出征し戦死する中で、知立町役場がこの歴史とどのように関わったかを知ることができる史料です。これには、軍から町長宛に届いた戦死通知書である「戦時死没者二関スル件内報」が約四百件綴られています。表紙には、「昭和十七年より」と記されていますが、それ以前の日中戦争時のものも数点あります。それらには、戦死した場所や死因(状況)が記されています。太平洋戦争末の史料には、具体的な死因は記載されず単に戦死と記されており、またこの綴りの半数以上は終戦後に届いたものです。知立市役所は、遺族にとって大切な情報であるこの史料を大切に保管していました。個人名が記載されているためどのような形で市史に取り上げるかは課題ですが、人々が衛生的なまちをつくり命を大切にしてきた歴史と、戦争で多くの命を失った歴史もふまえて、いまにつながる市史を多角的な視点で編集したいと考えています。

(近代・現代部会 部会長 土屋武志)

活動記録

(平成25年10月～26年8月10日現在)

編さん委員会 25年 11月26日
26年 1月24日、4月11日

編集委員会 26年 7月4日

▽部会

□考古部会
25年 10月28日、12月15日
26年 2月8日、3月1日、4月6日

4月28日、6月7日

部会では、26年度発刊に向けての原稿読み合わせが行われてきました。25年10月8日には、巻頭図版撮影(於名古屋市博物館)を行いました。

□古代・中世部会

25年 10月6日、12月20日

26年 1月24日、4月11日、6月6日

26年度発刊に向けて、原稿執筆についての確認・口絵候補の確定を行いました。

□近世部会

26年 7月11日

刈谷庄屋留帳の確認、毛利家や三浦家文書など知立に関係する資料の翻刻を続けています。

□近代・現代部会

25年 10月19日、12月15日

26年 2月22日、4月5日、6月29日

市内に残るまとまった町内文書及び歴史民俗資料館所蔵資料等の調査は概ね終了し、資料編掲載資料選定作業を進めていきます。

□民俗部会

26年 2月1日、4月29日

25年調査

11月1日御書さん、11月3日八剣社祭礼・個人聞き取り、

11月9日西町地区聞き取り、

11月22日恵比寿講、12月7日

第2回西町地区聞き取り

26年調査

3月2日山屋敷観音堂祭礼、4月13日権現社祭礼、7月19日個人聞き取り

その他知立まつりDVD製作にまつわる打ち合わせ及び撮影を実施しました。

□自然部会

25年 10月6日

26年 1月26日、4月20日、7月13日

8月3日～8月10日中間発表会

▽気象班

25年 11月9日大気汚染調査、11月17日

データ回収

26年 1月11日冬季酷寒指数観測、

1月26日・4月5日・6月14日・

8月13日 データ回収

▽生物班

25年 10月5日会議・合同調査

26年 2月8日会議、4月20日会議、6月

29日会議・合同調査・ライトトラップ

□文化財委員会

25年 10月6日

26年 6月1日

▽文化財調査

25年 10月18日了運寺・遍照院・浄教寺

26年 2月17日慈眼寺、3月17日浄教寺、

5月2日知立まつり山車・知立神社神輿撮影

▽建築調査

25年 10月18日山城屋、10月24日えびす屋、

10月29日有馬邸、11月17日山岡邸

市内文化財調査は概ね終了し、原稿執筆の段階に入りました。

お礼

今年度も、様々な所で様々な方々にご協力・ご教示賜りました。多くの励ましのお言葉やご指導のお言葉も頂きました。今後も市史編さん活動にご協力をよろしくお願い致します。



刊行物のご案内

好評発売中

『新編知立市史5 池鯉鮒宿本陣御宿帳』

B5版 四一五ページ・二六〇〇円

販売所 市役所市民課または歴史民俗資料館

江戸時代、宿場には大名等が利用する本陣という宿泊施設が置かれました。池鯉鮒宿にも永田清兵衛を当主とする本陣があり、宿帳八冊が現存し、愛知県の民俗文化財として指定されています。市制四〇周年記念としての意味も込めた新編知立市史第一回刊行図書であり、内容としては、本陣の利用者名・官職名・支払った金額・利用した人数・その他献立等が利用日毎に書かれています。巻末には利用者別の人名索引を付け、利用の便を図りました。

刊行予定

『資料編3 原始・古代・中世』

平成二七年三月刊行予定

B5版二冊箱入 四五〇〇円(予定)

▽考古(原始・古代・中世) オールカラー三一〇ページ(予定)

知立には、古くは今から約四千年前といわれる縄文時代の遺跡があり、弥生時代や古墳時代になると生活の跡も多く見つかっています。また、それより遡る旧石器時代の石器も採集されています。考古編では、こうした発掘で見つかった遺物や遺跡をできるだけ多くの図や写真とともに紹介します。

▽古代・中世 三〇〇ページ(予定)

碧海郡・三河の地名が見られる史料および知立神社関係史料等を網羅、ほかに木簡編・系図(永見氏家譜)からなる先回の市史では編集されなかった資料編です。研究者だけでなく一般の人にもわかりやすいように読み下し文や解説も付しました。

資料・情報収集について

市史編さん係では、資料を探しています。例えば、代々伝わる古文書、写真、地図、知立町時代の役場に関するものや、町内会文書などがありましたらご連絡下さい。または、戦時中のことや古い街並みなどについての情報がありましたら、お知らせ願います。

お問い合わせ

知立市教育委員会文化課市史編さん係

〒四七二一〇〇五三

知立市南新地二丁目三―三

歴史民俗資料館内

TEL 〇五六六一八三一六七八九

FAX 〇五六六一八三一六六七五

(図書館・資料館・市史編さん係共通)

E-mail sisi-hensan@city.chiryu.aichi.jp

新編知立市史だより第五号 平成26年10月16日発行

発行 知立市教育委員会文化課市史編さん係

市史編さん係ホームページもご覧下さい。

<http://www.city.chiryu.aichi.jp/hensan/>

